



気まぐれ八百屋だんだん

『おとな図鑑』つて あらためて考える 何だろう?

『おとな図鑑』のはじまりから、続けるなかで
感じたこと、これからに託す想いまで。
異なる立場で『おとな図鑑』をつくってきた
3人が話し合いました。

気まぐれ八百屋
だんだん代表

近藤 博子

学生
ボランティア

眞鍋 太隆

アーティスト

永岡 大輔

左から近藤、眞鍋、永岡。だんだんの壁画の前で。



『おとな図鑑』をひらくわけ

仕事や生き方は、たくさんあります。選び方もたくさんあります。自分が選ぼうとする道が、周りと違っていたり変わっていると、失敗するんじゃないかな、自分の選択がまちがっているかもしれない、と不安になることもあります。

でも、そもそも仕事や生き方を選ぶことは、とても難しいことです。

『おとな図鑑』で聞くことができるは、世の中あまり見かけない仕事や生き方をしている人たちの話。彼らは、聞いたこともないおもしろい話だけではなく、苦労したり失敗したりした話もしてくれます。自分の道を選んで、夢中になって、何よりも楽しそうな姿には、聞いているだけで元気にさせられるから不思議です。

「失敗」や「成功」というのは、単なる結果。そこにどんな意味があるのかは、自分にしかわからないことです。失敗や成功の中にある自分だけの意味を発見したときのことを、『おとな図鑑』に来てくれる大人は、教えてくれるはずです。

※このリーフレットは、はじまりから3年経った『おとな図鑑』のさざやかな記録。自分らしい仕事や生き方をしているおとなを招いて話を聞く。それが、誰かにとって希望になる。そんな『おとな図鑑』の種が、ここではないどこかでもまかれたらい嬉しいです。

「いまの君の今までいい」 伝える人と場所が必要

永岡『おとな図鑑』ができたきっかけ
は、だんだんに来ている高校生
が見ていた職業ガイドブック。
それぞれの職業の収入や特殊技
能がグラフになっていて、ゲー
ムの攻略本みたいだった。僕か
ら見たら、仕事についてこの本
で何がわかる?と、すごく引っ
かかって。近藤さんにそのこと
を話したんですよね。

近藤 永岡さんは、アーティストの仕
事について学校で話したら、「そ
れで食べていけるの?」と質問
された話もしていましたね。でも、
わたしとしては、多くの大人が
評価するような「稼げる仕事」
以外もいい、と思っているん
ですよ。だから、敷かれたレールとは違う
道を進んでいた大人们的な話を、
若者に聞いてほしい。人と違って
も、「これ!」と思ったものに突

き進むことが、精神衛生上いいこ
ともありますから。
「いまの君の考えを持ち続けてい
いんだよ」と伝えられる場所や
ものって少ないです。色々な生
き方があってもいいということ
を、どうにか伝えたいと思いました。

永岡 これまで呼んだ人たちは苦労し
てきているはずだけど、誰も苦
労話をしませんよね。嬉々とし
て「次はああしたい、こうしたい」
と思ってやっている。そこが大事。

多様な人のかかわりは、
めんどくさい。だからいい。

近藤 だんだんに来る子たちの話を聞
くと、とてつもない夢を語る子
はいなくて、現実的なもののが多
いんですよね。

眞鍋 それは当たり前だと思うな。そも
そも周りの大人が『おとな図鑑』
が伝えようとしていることを理解

『おとな 図鑑 だんだん

近藤博子

歯科衛生士のかたわら、有機野菜や自然食品を販売する「気まぐれ八百屋だんだん」を営む。2012年、子供がひとりでも安心して食べに来られる「子ども食堂」をだんだんで開始。

東京都大田区にある八百屋。読書会、読み聞かせ、スヌードル会、寺子屋、こども食堂などを開催。2017年からTURN LANDに参加し、『こども会議』、『だんだんHEKIGAプロジェクト』、『おとな図鑑』を開催。

こんどうひろこ
歯科衛生士のかたわら、有機野菜や自然食品を販売する「気まぐれ八百屋だんだん」を営む。2012年、子供がひとりでも安心して食べに来られる「子ども食堂」をだんだんで開始。

『おとな 図鑑 だんだん

ボランティアチーム

まなべたりゅうたからまさたつうえだひゅうが
眞鍋太隆・高良昌辰・上田飛我・
折原聖太・渡邊萌々香・宮本優太

この企画・運営に関わっている。

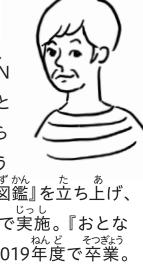
発行: 気まぐれ八百屋だんだん/執筆・編集: 小野民
編集協力: 岩中可南子(NPO法人Art's Embrace)
デザイン: ニシヤマリカ/写真: 鈴木竜一郎(①)、畠田了平(②)、塙本弦汰(③)
おとな図鑑ロゴデザイン: サイトヲビデユキ / 2020年3月25日発行

TURN

このプロジェクトは、東京都立のアートプロジェクトで、多様な人たちの交流する場、ともに過ごせる場を創出することを目指す団体。TURNの交流プログラムやTURN LANDの運営などを担う。

はなあ
から大変だけね。「こんなこと
を考えているんだ」と学べるから
一緒にやってきてよかったと思う。

近藤 だんだんのコンセプトは「互い
の違いを認め合う」というのが
一番真ん中にあるんです。『おとな
図鑑』も同じ。ゲストの話は
もちろん、準備の過程や、会場
に集まる人たちと一緒に、「大丈
夫、応援する人がここにはいる
よ」という想いを伝える場になっ
ていけばいいですね。



エヌピー オー ホームジン
NPO法人
Art's Embrace

アートとアートプロジェクトの力
で、多様な人たちの交流する場、
ともに過ごせる場を創出すること
を目指す団体。TURNの交流プロ
グラムやTURN LANDの運営
などを担う。

このプロジェクトは、東京都立のアート
プロジェクトで、多様な人たちの交流する場、
ともに過ごせる場を創出すること
を目指す団体。TURNの交流プロ
グラムやTURN LANDの運営
などを担う。

このプロジェクトは、東京都立のアート
プロジェクトで、多様な人たちの交流する場、
ともに過ごせる場を創出すること
を目指す団体。TURNの交流プロ
グラムやTURN LANDの運営
などを担う。

『おとな図鑑』は、自分の仕事や生き方について、迷ったり悩んだりしている声と出会い、始まりました。第1回、2回はアーティストの永岡大輔さんとだんだんの近藤博子さんが中心になり、「おとな」をだんだんに招いて開催。仕事や生き方についての講演やワークショップを行っています。第3回からは会場も大きくなり、だんだんのボランティアチームが運営に参加。「おとな」の人選や交渉もしています。

だい 第 1 かい 回	2017年8月18日	おとな 鈴木ゴリ宣仁
だい 第 2 かい 回	2018年2月12日	荒木義明
だい 第 3 かい 回	2019年3月2日	寺尾紗穂
だい 第 4 かい 回	2019年9月7日	マダム ポンジュール・ジャンジ
だい 第 5 かい 回	2019年12月15日	永岡大輔

※これまでの『おとな図鑑』の詳細は、ウェブアーカイブページにアップしています。
是非ご覧ください。



<https://otonazukandandan.wixsite.com/mysite>

©浅野カズヤ



だい 第 3 かい 寺尾紗穂

シンガーソングライター・エッセイスト

1981年東京都生まれ。大学時代にバンドを結成しボーカル、作詞作曲を務める傍ら、弾き語りの活動を始める。2007年メジャーデビュート。映画の主題歌を多数担当し、CM、エッセイの分野でも活躍中。2009年よりビッグシーサポートライブ「りんりんふえす」を主催。アルバム『たよりないもののために』、著書『評伝川島芳子』(文春新書)、『南洋と私』(リトルモア)など多分野の作品多数。

「わたしの仕事は何でしょう」という問い合わせから始まった、寺尾さんの話。音楽をつくって届ける、書くこと、ナレーション。かたちは違いますが、どの仕事も、「表現して届ける」という意味では根っこは同じなのかもしれません。4歳で初めてつくった曲に始まり、そのときどきの想いを乗せてつくられた歌の弾き語りを聞きながら、寺尾さんの大切にしていることが明らかになっていきました。仕事を通じて、マイノリティの人々に寄り添い、課題解決への行動を起こしてきたことも、寺尾さんらしい仕事のあり方なのだと感じました。



「自分が好きなことは、手離さないでやり続ける」。その実践の結果が、寺尾さんの仕事です。当たり前とされていることから外れても、有名にならなくても、それぞれの仕事の役割があるはず。なにより、自分が好きなことがそばにあれば、心が喜び、元気に生きられるのだと教えてくれました。



だい 第 1 かい 鈴木ゴリ宣仁

牧師・木こり

だい
大
学
の
神
学
部
を
卒
業
後
、
幼
稚
園
の
副
園
長
に
な
っ
て
い
る
よ
う
に
、
『
一
般
社
団
法
人
ど
そ
い
』
の
代
表
理
事
と
し
て
、
発
達
障
害
の
あ
る
子
供
た
ち
の
ため
の
デ
イ
サ
ー
ビ
ス
事
業
所
の
運
営
を
軸
に
、
木
こ
り
、
牧
師
な
ど
の
活
動
を
並
行
して
行
う

はなし お話しの内容

世の中の「こうあるべき」というイメージに囚われない鈴木さん。幼稚園の副園長だったときにも、キーボードを背負って演奏しながら子供たちと遊んでいました。牧師の仕事だとしても、自分の自然なあり方を大切にし、坊主頭、ランニングシャツ、半ズボンという姿で説教をしていたそうです。社会が無意識に要求する姿を演じるのではなく、自分らしい仕事をすることを大事にしています。

もうひとつ大事にしているのが、「困っている人と一緒に歩いてみること」。その原動力は「純粋な好奇心」と鈴木さんは言います。相手について深く知ろうとすること、自分が誰かのためにできることをしてみることが、いまの仕事につながっていたようです。鈴木さんの仕事は、お金を得るものという側面のほかに、誰かに贈りものをするものもあるのです。



だい 第 2 かい 荒木義明

数学者

1998年に作家M.C.エッシャーに関する国際会議への参加をきっかけに、图形の敷き詰めを応用した新しいデザインを開拓・研究を進め、日本セレーションデザイン協会を発足。最近では国内外のワークショップ、展覧会、講演等を通して敷き詰めの楽しさを伝える活動を行っています。



荒木さんは、仕事を考えるコツも教えてくれました。世の中には、解決していないこと、問題だとと思われていないことがたくさんあります。シンプルに考え、見方を変えてみると、専門家でもたどり着けない答えを見つけられるかも。そんな好奇心が仕事につながっていくかもしれません。



だい 第 5 かい 永岡大輔

アーティスト

1973年山形県生まれ。Wimbledon School of Art修了。記憶と身体との関係性を見つめ続けながら、創造の瞬間を捉える実験的なドローイングや、鉛筆の描画を早回しした映像作品を制作。平面や映像作品以外に、朗読体験を通して人々の記憶をつなげるプロジェクト『Re-constellation』による公演も。現在、新しい建築的ドローイングのプロジェクト『球体の家』に取り組む。



はなし お話しの内容

永岡さんは、「自分が何かわからない」と話し始めました。「そもそも、アートってなんだろう?」と会場へ問いかけると、「創造性」「文化」「わからないもの」とさまざまなお返答。このバリエーションをみても、アーティストの定義は難しいことがわかります。永岡さんが話してくれたのは、幼稚園の頃に抱いた「大工になる」という夢から始まる、生業を持つまでの歩みでした。



思春期には「絵描きになりたい」という夢を持ちますが、周囲から反対された永岡さん。しかし、自分が本当にやりたいことを選んでその道を進んでいくためには、贊成や応援だけでなく反対の意見も必要だと伝えてくれました。

その後は、創作の目的は「エネルギーを渡すこと」というお話を。その想いを持って生み出してきた作品を紹介していただき、現在、永岡さんが制作中の『球体の家』について、来場者たちが話し合ってアイデアを発表しました。



だい 第 4 かい マダム ポンジュール・ジャンジ

Female Drag Queen・パフォーマー

1997年より交歓のAll Mix Party「ジューシー!」リピング・トラックにて主導を務め、HUGたいそう!「Living Together/STAND ALONE」他。新宿二丁目にあるHIVをはじめとするセクシャルヘルスに関する情報センター&フリースペース「コミュニティセンターakta」のセンター長を務める。

はなし お話しの内容

世の中には多様な人たちがいて、「他の人と違っていてもOK」。ジャンジさんは、そんなメッセージを体现し発信し続けています。話の導入は、小学生の時「女の子だから」という理由でサッカー部に入れない理不尽な体験から。おとなになり、既成概念に囚われない自由を表現できるファッショントリトリーにつきますが、周りから求められる「女性らしさ」と自分の心とのギャップに苦しみ続けました。そんな時、歌やダンスといったパフォーマンスに出会い、自身も演者に。心と身体と魂が一致して、「そのままの自分で良い、属性や立場を超えて共に生きる世界をくつていこう」としているのです。



決心したそうです。また、ジャンジさんは、生きづらさを感じている人のための、居場所をつくる活動も行っています。新宿二丁目にあるaktaでの活動などを通して、マジョリティ/マイノリティと括るのではなく、属性や立場を超えて共に生きる世界をくつていこうとしているのです。